

日本語専攻シラバスにおける 実質語機能語について

王 婉 莹

要 旨

日本語においては、名詞・動詞・形容詞のような実質的な語彙的な意味を表わす語が実質語であり、接続詞・接続助詞などの、実質的な意味の空虚な、主として文法的機能を示す語が機能語であると考えられている。本研究では、まず、先行研究をふまえたうえで、実質語でありながら、同一の形式・形式が多少変化するにより、機能語・機能語的になる言葉を「実質語機能語」と名付けた。次に、中国の「日本語専攻シラバス」を考察対象とし、「基礎シラバス」「高学年シラバス」における「実質語」「機能語」、とりわけ「実質語機能語-ところ」を例に取り上げ、分類語彙表・日本語能力試験出題基準に照らしながら、分析を進めた。最後に、日本語教科書コーパスにおける「ところ」表現にもふれ、日本語専攻シラバス、教科書、言語教授における「実質語機能語」など、体系化教育の強化を提言した。

キーワード：実質語機能語，基礎シラバス，高学年シラバス，体系化教育

1. はじめに

日本語教育者として、シラバス（教学大綱）・教材についての調査、研究が必要となる。それはシラバスの改訂・教材編集に役立つと考えられるからである。マクロ的な立場から考えれば、日本語には実質語でありながら、同一の形式・形式が多少変化するにより、機能語になる「実質語機能語」がある。教育者にとって、これらの言葉を教授することは、非常に手間暇がかかることである。したがって、本研究では、中国における大学日本語専攻シラバス：①教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组（2001）《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》（以下、基礎シラバス）、②教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组（2000）

《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》(以下、高学年シラバス)を研究对象¹⁾として考察し、日本語教育の向上に資することを目的とする。

2. 実質語機能語とは

亀井・河野・千野(1996:275)『言語学大辞典』によれば、「語という単位をいちおう認めた上で、語の分類を伝統的な品詞の分類から離れて行なう場合、語彙的な意味を表わす実語に対して、文法的な機能を示す語を機能語とよぶ。(中略)名詞・動詞・形容詞のような実質的な語彙的な意味を表わす語が実語であり、冠詞とか前置詞・接続詞などの、実質的な意味の空虚な、主として文法的機能を示す語が機能語または形式語である」という。

三宅(2005:62)は「実質的な意味を持ち、自立した要素になり得る語のこと」を「内容語」と、「逆に、実質的な意味、および自立性が希薄で、専ら文法機能を担う要素になる語のこと」を「機能語」と考えている。「内容語」はいわゆる動詞や名詞など、「機能語」はいわゆる助詞・助動詞を指している。更に、動詞や名詞などの語が助詞・助動詞的な機能を有し、又、「文法化」前後の言語形式は同一形式であると理解できる。

筆者の知る限りでは、日本では、榊井(1964)が初めて「機能語」という術語を用い、新屋(2010)も「実質語性」「機能語性」という用語を使用した。その後、庵(2012)、山内(2012)(2013)も最近の研究で取り上げていることが明らかになった。

3. 実質語機能語の分類基準とその種類

日本語には、一部分の言葉は実質語でありながら、同一形式、形式が多少変化することにより、機能語という働きを持つようになる言葉がある。いわゆる実質語が機能語又は機能語的に変わったと認めてもよからう。同一形式の「内容語」から「機能語」に変わった現象を三宅(2005)は「文法化」と呼んで、「内容語と機能語の間のカテゴリーの連続性」に着目している。「文法化」という言葉は文法的な側面、言語現象の変化をより強調し、しかも、「らしい」のような言葉を含む可能性があることから、それは必ずしも実質語から機能語までの変化を指すとはかぎらない。

筆者は「文法化を内容語から機能語への変化としている」ことに賛同し、意味的な側面での「漂白化」と、形態・統語的な側面での「脱範疇化」を合わせ持つ言葉を「機能語」と考える。又、本研究では、実質語でありながら、機能語であ

るものを「実質語機能語」と名付けておきたい。それは「実質語機能語」という言葉なら、範囲を狭め、機能語への変化を実質語だけに限定し、変化前の言語現象も十分に視野に入れて、全体的体系的に把握できるからである。日本語教育においては、中上級学習者にとって、個別の言語現象を教授したうえでの体系的な教授が一層重要であるため、これを語彙的な立場に立ち、名付けているわけである。これを典型的に見なせる「文法化」とも考えられよう。

三宅は助詞化・助動詞化という角度から、文法化諸相を大きく「格助詞・接続助詞、名詞+だ・て形接続の補助動詞・複合動詞の後項・その他」に分類した。言うまでもなく、これらは日本語教育における重点又は難点でもあると認識されている。以下、筆者は三宅が列挙しているものを①～⑥に整理し、挙げておく。(三宅2005: 68-72)

表1：三宅(2005)文法化諸相

文法化	諸相	内容
助詞化	①格助詞	～において、～について、～によって、～にとって、～に対して、～に関して、～に際して、～に限って、～をめぐって、～をもって、…
	②接続助詞	A: ϕ / に → トキ, アイダ, コロ, タビ, 場合, タメ, ユエ, 末, アゲク, … B: ϕ / * に → 結果, カギリ C: * ϕ / に → 度毎, クセ, ワリ, ヨウ
助動詞化	③名詞+だ	ようだ, はずだ, ところだ, ものだ, ことだ, つもりだ, わけだ
	④て形接続の補助動詞	～ている, ～てある, ～ておく, ～てみる, ～ていく, ～てくる, ～てやる, ～てくれる, ～てもらう, ～てしまう, …
	⑤複合動詞の後項	～かける, ～だす, ～始める, ～まくる, ～続ける, ～終わる, ～終わる, ～尽くす, ～きる, ～通す, ～抜く, ～そこなう, ～損じる, ～そびれる, ～かねる, ～遅れる, ～忘れる, ～残す, ～誤る, ～あぐねる, ～過ぎる, ～直す, ～つける, ～慣れる, ～飽きる, ～あう, ～得る
	⑥その他	かもしれない, にちがいない ～がある: 可能性がある, 恐れがある, ことがある ～がする: 気がする, 感じがする

①類は「動詞であったものから固定的形をとることによって作られた」もので

ある。②類について、「に」の後接がない場合の方が、文法化の度合いが高い」という。③類を「典型的な文法化の例」と考えている。④類について、「補助動詞における本動詞性と助動詞性の間には連続性が存在する」から、「補助動詞の分析に文法化の視点を取り入れることには意義がある」という。⑤類は「語彙的」以外に、「統語的複合動詞の後項は、文法化されたものとみることにも可能である」。残りの⑥類を「内容語を含む複数の形態が合成されて、助動詞化しているもの」としている。

①③④⑤類は本研究で述べている「実質語機能語」であり、①④⑤類の動詞以外に、③類だけはそもそも名詞からなる。後文においては、典型的な実質語機能語「ところ」を取り上げ、分析することにしたい。

4. 専攻シラバス

4.1. シラバスとは

日本語教育学会（2005：754）によれば、「日本語教育での『シラバス』の意味は二大別される。まず、クラスの構造、目標、目的、履修条件、成績決定方法、教材、カバーされる内容、スケジュール、参考文献などを記述した文書で、教師と学習者のあいだの契約のような役割を果たすものを指す。また、教育方法、あるいはクラスの教育・習得内容（たとえば、文法構造、文パターン、機能、トピックなど）とその構成を示したものをシラバスと呼ぶ」という。それは更に「文法・構造シラバス」「概念・機能シラバス」「状況・場面シラバス」「複合シラバス」などの種類に分かれている。中国における専攻シラバスはいわゆる「複合シラバス」のようなものと理解できる。ただし、単なる教育・習得内容だけから考えれば、シラバスとは、あるコースでの学習項目を、ある原則によって配列し、記述したものを指すとも言えよう。また、筆者の調べた限りでは、大学専攻日本語教育用シラバスとしては、中国以外には、総合的な「複合シラバス」のようなものはないと言える。

4.2. 専攻シラバスの構成

4.2.1. 基礎シラバス

基礎シラバス1999年版が出版され、2001年に改訂版が出されて以来、改訂版から今日まで既に12年間経過した。基礎段階の学習は2年間であり、教授内容は発音、文字、語彙、文法、基礎文型、ファンクションの6項目からなる。1年目の学習語彙・連語数は約3000個、2年目の学習語彙・連語数は1年目のを含め、

約5600個までに達する。文法については、2年間にわたり、敬語の使い方、テンス・アスペクト・ヴォイス、複文の分析と使用、更に句型を246個習得させる。

4.2.2. 高学年シラバス

高学年シラバス2000年版が出版されて以来、すでに13年間指導し続けている。シラバスは総則、カリキュラム、卒業論文・実習、テスト・評価、語彙表、文法的機能語、世界各国の国名・首都名の日本語訳から構成されている。pp.14-386に語彙表が掲載されているが、語彙数は明確に記載されていない。数えてみれば、1ページは概ね24-27個の語彙からなる。また、文法的機能語は、助詞的働き・助動詞的働き・文語の使い方という3項目に分かれて記されている。それを表にまとめれば、次のようになる。

表2：文法的機能語

項目	内容
助 詞 的 働 き	1. 資格, 立場, 状態, 観点: をもって/でもって
	2. 対象, 相関: につき/に関して, をめぐって/をめぐり, にかけて (は, も)
	3. 動作, 仲介, 手段, 根拠, 原因: をもって/でもって, を通して/を通じて, にして, につき
	4. 時間, 場所, 状態: (の) 折に/ (の) 折から, につけ (て), にして
	5. 起点, 終点, 範囲: からして/をはじめ, にわたって
	6. 基準, 境目: をもって/につき
	7. 同格: との/といった, ところの
	8. 主題化: とは, とくると/ときたら, となると/となれば/になると / になっては, といえども, にはおかれましては
	9. 強調: にしても, のあまり (に) / のかぎり/ のこと (で), とばかり (に) / ンばかり
	10. 限定, 非限定: に限って/ に限り, ならでは, に限らず/ によらず/ を問わず, いかんでは/ いかんによらず
	11. 添加: どころか
	12. 除外: をよそに
	13. 不明確: と (も) なく, とやら
	14. 同時性: や否や/ が早いか/ そばから/ とたん (に), (か) と思うと / (か) と思えば/ (か) と思ったら/ (か) と思う, 間もなく/ (か) と見ると/ (か) と見れば

助 詞 的 働 き	15. 継起：すえ（に）／あげく（に），ところ（が）
	16. 相関：に従い／に従って／につれ（て），とあいまって
	17. 順接仮定：かぎり（は），ないことには，ては，とすると／とすれば／としたら，（よ）うものなら
	18. 原因と結果関係：からには／からは／以上（は）／うえは／かぎり（は），だけに／だけあって，ばかりに，もので／ものだから／ものを，ばこそ，とあって
	19. 逆接仮定：ないまでも，たところで，（よ）うが／（よ）うと
	20. 確定：からといって，とはいえ／とはいうものの／とはいいながら／とはいい，と思いきや，に（も）かかわらず，くせに／くせして，ものの／ものを，わりに，が（たら）最後
	21. 対比：のに対し（て），かわり（に）
	22. 反復：ては
	23. 例示の対象：～といい…といい／～といわず…といわず，～につけ…につけ
	24. 仮想の対比：～（よ）が…よ（う）が／（よ）うと…（よ）うと，～（よ）が…まいが／（よ）うと…まいと
25. 伝聞：とやら	
26. 回想：たっけ／だっけ	
助 動 詞 的 働 き	1. 禁止：べからず，ものではない
	2. 義務，当然，必然，必要，勧告，主張及び否定：ざるをえない／よりほか（は）ない，ものだ，わけだ，のだ，はずだ／（わけだ），ことだ／ものだ，ことになる，にきまっている，ずには（ないでは）いられない，ずにはおかない，を余儀なくされる
	3. 不可能，不必要：ものではない，わけではない，わけにはいかない，わけがない／はずがない，ことはない，べくもない，どころではない，とは限らない，には及ばない／までもない
	4. 推測，推量，推定：かもしれない，違いない，ところだ，のだろう
	5. 適当，願望，提案，勧誘，勧告：ばいい／といい／たらしい／がいい，てほしい，（たい）ものだ
	6. 限定：までだ／までのことだ
	7. 程度：に過ぎない，に足りない／てもしかたがない／ても仕様がな，（とい）ったらない（ありはしない）／かぎりだ，だけのことはある
	8. 経験，回想，習慣：ことにしている／ようにしている／ことになっている
	9. 伝聞：とのことだ／という（ことだ）
	10. 態：ずにいる／ずにおる／ずにおく／ずにしまう，つつある，一方だ，んばかり／たばかり

文語の使い方	1. 資格：たる
	2. 目的：べく
	3. 仮定逆接条件：たりとき
	4. 否定（不可能）：まじき、べからざる
	5. 使役：たらしめる／ならしめる
	6. 仕方がない：ざるとえない ²⁾

高学年シラバスの現代日本語文法項目については、助詞的・助動詞的に2分類され、さらに表す意味から36項目に細かく分けられていることを高く評価したい。

意味ごとに並べてあるのにはそれなりの学習目的はあるが、しかしながら、用例は挙がっていないことを指摘したい。「をもって」を例に、「助詞的働き」の1, 3, 6に提出されてはいるが、いずれも使用例は出されていない。したがって、整理の仕方を今一度工夫すべきであろう。

一方、学習者を対象に、意味による表現の類似点と相違点、伝達効果の相違を明確にする以外に、言語形式に焦点を定め、「実質語機能語」について取り上げ、体系的な学習も必要となるであろう。学習項目の中に入っている「実質語機能語」の体系的な学習が難しくなるからこそ、それを含めてのシラバスの細分化・再構築が必要に迫られるのであろう。

5. 専攻シラバスについての分析：「ところ」を例に

5.1. 基礎シラバスと高学年シラバスにおける「ところ」

基礎シラバスと高学年シラバスにおける「ところ」を次のようにまとめることができる。³⁾

表3：シラバスにおける「ところ」

	词汇表 (訳：語彙表)	语法表(词法) (訳：文法表)	基础句型表 (訳：基礎文型表)	语法功能词 (訳：文法機能語)
基础大纲 (訳：基礎シラバス)	ところ(所)： 地点，位置。 地方，地区。 住所，住址。 时间，场合。	接续词→ 逆接：ところが	…ところだ。将 要…。正要…。 刚刚…。	起助词作用→ 表同格ところの
	ところが [接]	接续词→转变话 题：ところで		起助词作用→ 表继起ところ(が)
	ところで [接]	助词→接续助词 ところ：表确定 顺接条件		起助词作用→ 表逆接假设たところ で
		助词→接续助词 ところが：表确 定逆接条件		起助词作用→ 表推测，推量，推 定ところだ
		助词→接续助词 ところで：表假 定逆接条件，表 确定逆接条件		

5.2. 「ところ」についての分析

5.2.1. 分類語彙表と日本語能力試験出題基準

5.2.1.1. 分類語彙表

国立国語研究所(2004)の『分類語彙表(増補改訂版)』においては、語彙が「体の類」「用の類」「相の類」「その他の類」に分けられている。「体の類」は「抽象的關係」「人間活動の主体」「人間活動-精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」という意味領域に、「用の類」「相の類」は「抽象的關係」「人間活動-精神および行為」「自然物および自然現象」という意味領域に跨っている。

「ところ」という言葉は「体の類-自然物および自然現象-植物-草木-1箇所」に記載されているのに対し、「所」という表現は「体の類-抽象的關係-時間-場合-1箇所」と「体の類-抽象的關係-空間-空間・場所-1箇所」に記述されている。又、「ところが」は「その他の類-接続-反対-1箇所」に、「ところで」は「その他の類-接続-転換-1箇所」に記されている。

5.2.1.2. 日本語能力試験出題基準

国際交流基金（2002）『日本語能力試験出題基準（改訂版）』においては、「ところ（所）」が4級語彙として、語彙表に載っている。又、2級語彙として、「ところ、ところが、ところで」が挙がっている。

3-4級の文法リストは「A.文法事項」と「B.表現意図等」に分けられて、相補的に構成されている。文法3級リストの「B.表現意図等-その他」には、「表現形式」として、「V（辞書形）トコロダ、Vテイルトコロダ、Vタトコロダ」が挙げられている。それに対して、1-2級では、文法的な機能語の類2級には「～たところ」「～ところに／～ところへ／～ところを」の2項目が、文法的な機能語の類1級には「～たところで、～というところだ／といったところだ、～ところを、～としたところで／～にしたところで」の4項目が記載されている。

5.2.1.3. シラバスとそれらとの比較

中国にいる日本語専攻大学生にとって、その学習目標の一つとしては、大学4年間に在学中に、日本語能力試験1級合格を目指すことである。習得の速い学生なら、2年終了時点の7月、3年前半の12月に試験に合格できる。したがって、シラバスと日本語能力試験出題基準を比較すれば、次のようなことが分かる。

- ①「高学年シラバス」における「起助詞作用→表同格ところの（助詞の働きをし、同格の「ところの」）」、「起助動詞作用→表推測、推量、推定ところだ（助動詞の働きをし、推測・推量・推定の「ところだ」）」などについては、具体例が列挙されていないため、一層明確にする必要があると考える。
- ②日本語能力試験出題基準に含まれている「文法的な機能語の類1級」における「～というところだ／といったところだ」という項目が高学年シラバス「文法機能語」と内容面における重複度は用例などがいないため、いまいち明確になっているとは言えない。又、「～ところを」が文法的な機能語の類2級にも、文法的な機能語の類1級にも記載され、用例は挙がっていないため、理解しかねる。
- ③シラバス・日本語能力試験出題基準においては、指導項目についての詳細な説明は限界があるため、習得との具体的な関係が明らかになっているとは言えない部分がある。したがって、体系的な関係も含めてのさらなる検討が必要となるであろう。

6. 専攻教科書についての分析：「ところ」を例に

北京日本学研究中心（2007）『日本語教科書コーパスJTC』には、4種類の日本語専攻教科書が収録されている。それは、上海外国語大学編集『新編日語』（SW）、北京大学編集『新編基礎日語』（BD）、北京外国語大学編集『基礎日語教程』（BW）、大連外国語大学編集『新大学日本語』（DW）からなる。王（2013）「ところ」意味用法の4分類を参考にし、コーパスに基づいて計算した結果を表4、5、6、7にまとめてみた。⁴⁾

表4：『新編日語』中の「ところ」

新編日語	ところ実質語名詞	ところ実質語的時間名詞	ところ機能語接続詞	ところ機能語接続助詞	合計
一冊	29	0	12ところで	0	41
二冊	45	14るところ 22ているところ 12たところ 2時間	22ところで 1ところが	0	118
三冊	68	5るところ 9ているところ 3たところ 5時間	6ところで 10ところが	0	106
四冊	33	5るところ 3ているところ 1たところ	6ところで 10ところが	17たところで 13たところ(が)	88
合計	175	81	67	30	353
パーセント	49.6%	22.9%	19%	8.5%	100%

表5：『新編基礎日語』中の「ところ」

新編基礎日語	ところ実質語名詞	ところ実質語的時間名詞	ところ機能語接続詞	ところ機能語接続助詞	合計
一冊	7	0	6ところで	0	13
二冊	17	0	1ところで 7ところが	0	25

三冊	62	1るところ 7ているところ 2たところ 9時間	5ところで 16ところが	9たところで 2たところ(が)	113
四冊	34	2るところ 1たところ 3時間	7ところで 16ところが	6たところで 1たところ(が)	70
合計	120	25	58	18	221
パーセント	54.3%	11.3%	26.2%	8.1%	100%

表6：『基礎日語教程』中の「ところ」

基礎日語 教程	ところ 実質語名詞	ところ実質語的 時間名詞	ところ機能語 接続詞	ところ機能語 接続助詞	合計
一冊	2	1時間	1ところで 7ところが	0	11
二冊	12	17るところ 8ているところ 17たところ	0	2たところで 1たところ(が)	57
三冊	32	1るところ 2ているところ 2たところ 1時間	5ところが	2たところで 16たところ(が)	61
四冊	33	1るところ 1たところ 4時間	2ところで 6ところが	7たところ(が)	54
合計	79	55	21	28	183
パーセント	43.2%	30.1%	11.5%	15.3%	100%

表7：『新大学日本語』中の「ところ」

新大学日本語	ところ 実質語名詞	ところ実質語的 時間名詞	ところ機能語 接続詞	ところ機能語 接続助詞	合計
一冊	7	0	0	6たところ(が)	13
二冊	17	2るところ 10ているところ 9時間	9ところで	0	47
三冊	28	0	1ところで 13ところが	6たところで	48

四冊	69	4るところ 4ているところ 5時間	4ところで 14ところが	4たところで 2たところ(が)	106
合計	121	34	41	18	214
パーセント	56.5%	15.9%	19.2%	8.4%	100%

コーパスから見れば、4種類の教科書には「ところ実質語名詞」が最も多くある。中では、「ところ実質語名詞」の出現数は43.2%-56.5%の間にあり、場所、位置、地区、住所、範囲などの意味を表わしている。「ところ実質語的時間名詞」の出現数11.3%-30.1%となり、「忙しいところ、今のところ、このところ、このところ、いいところ、出かけるばかりのところ」などが含まれる。「ところ機能語接続詞」の出現数は11.5%-26.2%であり、「ところ機能語接続助詞」が8.1%-15.3%の間にある。全体から見れば、いずれにしても、各用法の出現数はほぼ減少していくことが明らかになっている。更に、各教科書の用法出現数の順位を表にまとめれば、次のようになる。

表8：4種類教科書の比較

教科書	「ところ」用法出現数の順位
新編日語	実質語名詞>実質語的時間名詞>機能語接続詞>機能語接続助詞
新編基礎日語	実質語名詞>機能語接続詞>実質語的時間名詞>機能語接続助詞
基礎日語教程	実質語名詞>実質語的時間名詞>機能語接続助詞>機能語接続詞
新大学日本語	実質語名詞>機能語接続詞>実質語的時間名詞>機能語接続助詞

7. おわりに

筆者の調べた限りでは、シラバス全体についての研究は国立国語研究所(2003)だけである。それは論文集合計4巻という形で世に送られた。その中でもとりわけ本研究と関係のある有賀・植木ほか(2003)に注目した。語彙・文法はそもそも切っても切れない関係にある言語現象であり、今後シラバスと教科書においても、言語教授においても、体系学習の強化が求められるであろう。したがって、それに備えるための指針を与え、言語教育の一層の向上を図るべく、取り組んでいくことを期待してやまない。

又、シラバスと教科書との関係を今後の研究課題として考えていきたい。

注：

- 1) 研究対象となるシラバスの訳文は次のとおりである。訳文：①教育部大学外国語専攻教学指導委員会日本語グループ編(2001)『大学日本語専攻基礎段階教学シラバス』。②教育部大学外国語専攻教学指導委員会日本語グループ編(2000)『大学日本語専攻高学年段階教学シラバス』。中国語の日本語訳は筆者による。以下同じ。
- 2) 「ざるをえない」の誤植であろう。
- 3) 基礎シラバス・高学年シラバスにある詳しい説明を中国語そのままに保留した。
- 4) 四捨五入で、小数点1桁保留するため、場合により、1パーセントの誤差は出る可能性がある。又、数字の右側は項目であり、左側はその項目の出現数となる。

参考文献：

- 有賀千佳子・植木正裕ほか(2003)「基本語用例データベースの構想」,『国立国語研究所』
『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成』論文集第2巻
- 庵功雄(2012)「『日本語』分野—『日本語』研究の再活性化に向けて」,『日本語教育』
153
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一(1996)『言語学大辞典』6巻<術語篇>,三省堂
- 新屋映子(2010)「類義語「状況」「状態」の統語的分析—コーパスによる数量的比較」,『計
量国語学』27-5
- 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组编(2000)《高等院校日语专业高年级阶
段教学大纲》大连理工大学出版社
- 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组编(2001)《高等院校日语专业基础阶段
教学大纲》大连理工大学出版社
- 国際交流基金(2002)『日本語能力試験出題基準(改訂版)』,凡人社
- 国立国語研究所(2004)『分類語彙表(増補改訂版)』,大日本図書
- 砂川有里子(2011)「日本語教育へのコーパスの活用に向けて」,『日本語教育』150
- 日本語教育学会(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店
- 北京日本学研究中心(2007)『日本語教科書コーパス JTC』
- 榊井迪夫(1964)「文法の効用」,『語学教育』272
- 三宅知宏(2005)「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐって—」『日
本語の研究』第1巻3号
- 山内博之(2012)「非母語話者の日本語コミュニケーション能力」,野田尚史編『日本語
教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版
- 山内博之・橋本直幸ほか(2013)『実践日本語教育スタンダード』,ひつじ書房
- 王婉莹(2013)「<日语教育中实质语功能语「ところ」的意义用法研究>」,中国《清华大
学教育研究增刊》

謝辞：本稿を執筆するにあたり，研究滞在中に，大学関係者の皆様，とりわけ快く引き受けてくださった文学部山岡政紀教授にたいへんお世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。

「本研究为清华大学人文社科振兴基金研究项目的阶段性研究成果(课题号：2013WKYB005)」

(WANG · Wanying, 清華大学教授)